

親子クッキング教室から



食育の基礎は家庭から
私たちの食事は一日三回、年間にすると1000回以上の回数になります。そして、その大半が家庭での食事です。食育の基礎は、家庭の食卓にあると言えます。

大事なことは家庭での食事

子どもと一緒に料理を作る

子どもと一緒に料理を作ったり、買い物に出かけたりすること、食への関心や食べることの楽しさ、良い食材を選ぶ力を伝えることにつながります。

家族そろっての食卓を

家族そろっての食事の場は、子どもたちに食べることの楽しさを伝えるだけでなく、親子が互いのことを理解し合い、きずなを深め合える「食を通じたコミュニケーション」の場にもなります。

知ってる？ 最近の給食事情

●セレクト給食

事前に、おかずなどの1品を選択できるシステムで、子どもたちに大好評です。

自分自身で選択することで、食べ物に対しての興味・関心を高めてもらうことが目的です。

●ハッピーニンジンDAY

ニンジンが好きになってもらおうと、ハートやお花、ペンギンなどさまざまな形のニンジンが、月1回、給食に隠れています。(※谷和原地区のみ)



豊小学校の給食から

育てよう食育の力

食育を通して生きる力を育むとは、具体的にはどのようなことなのでしょう。

(財)日本食生活協会が提唱する「親子で食育、親子で5つの力を育てましょう」の中では、「食育」は単に「食」に関する知識だけを学ぶのではなく、豊かな自然によって育まれる命の素晴らしさ、愛おしさを学ぶこと、すなわち「心」を育てる教育だ

と定義づけています。

その「5つの力」とは、

●料理をする力

指を使い、五感を総動員して料理を作ること、子どもの創造力、集中力、計画性を育みます。

●食べ物を選ぶ力

自分の体にとって必要な食べ物をバランスよく食べているかを判断する知識と知恵を身につけましょう。

●食べ物の命を感じる力

野菜、肉、魚といった食材は豊かな自然が育んだ「生命」です。自然や食べ物を尊重し、感謝する心を持ちましょう。

●食べ物の味が分かる力

食材そのものが本来持っている味やおいしさを正しく分かる味覚を育てましょう。

●元気な体の分かる力

自分の体のもつとも元気な状態を感じて、常に健康でいられるよう、体をコントロールする力を身につけましょう。

食育は、単に食の知識や情報を身に付けるだけではなく、心も育てる教育です。学校・家庭・地域社会が一体となって食育を進めることは、地域の素晴らしさに気づくことに通じます。食育は、明日の地域を守り、未来に向けた地域づくりへと広がっていくのではないのでしょうか。

親子クッキング教室に参加して



ばんばん 萬場 雅美さん (左) (谷井田) 江美ちゃん (右)

子：江美ちゃん(5歳)
「いつもお母さんと一緒にお料理をしています。お料理は楽しいので、大好きです!」
母：雅美さん
「子どもの料理は、あまり手伝わず、好きなようにやらせて、子の成長を楽しんでいます」

学校給食費の未納・滞納について

学校給食費は、給食の材料費として負担していただくもので、その納付は学校給食法により定められた保護者の義務です。

平成21年度の給食費は、安心して便利な口座振替で納入いただいています。ただし、残高不足などの理由で口座振替ができなかった場合に限り、学校の集金とともに給食費を納めていただくようお願いしています。

市における平成20年度以前の未納・滞納者については、残念ながら、児童のいる全世帯のうち約1%の割合で存在します。給食センターをはじめ、市職員による家庭訪問を行い、収納相談を通じて滞納の解消に努めています。

問 伊奈給食センター ☎58-2111 (内線9151)

問 谷和原給食センター ☎58-2111 (内線9161)